

狀全似杜鵑而色灰白、掌指亦同、但口中黃而無聲、凡杜鵑上樹啼時、其樹邊必有無聲杜鵑、此則蟲喰也、故世俗以爲杜鵑之雌、果然乎、其味亦與杜鵑不異耳、

〔和漢三才圖會四十三〕蟲喰鳥林禽

按、虫喰鳥狀似杜鵑、略中蓋清少納言曰、鶯至夏秋之末、老聲鳴時、名之蟲喰、云々、此說非也、非鶯之老

者、少似鶯而多似杜鵑、

〔喚子鳥上〕大むしくひ

ふがひ 生八分、あをみ入、粉壹匁

大きさはひよ鳥に大きし、毛色ほと、ぎすにて黒し、あら鳥かいたし、子がいも其年をこしがたし、

鶯むしくひ

ふがひ 生五匁、あをみ入、粉壹匁

大きさは鶯の半分ちいさし、毛色鶯にたり、囀りよし、秋のすゑに出て春また少しあり、よはきるいにて、かんきにいたみそのとしこしがたし、

めばち虫くひ

ふがひ 右同斷

大きさはうぐひすに小ぶり、毛色うす黒くあをみあり、總身ねすみ色にふ有さへづりほそし、秋の末より冬まで出る、かい鳥の下品なり、

たかむしくひ

ふがひ 生五匁、あをみ入、粉壹匁

大きさはめばちに大ぶり、毛色めばちにてふあらく、きれいななり、囀りほそく、諸事めばちにをなじ、

鳥駕むしくひ

ふがひ 右同斷

大きさはたかむしくひ、毛色あかみ有さへづりほそし、

せんたい虫くひ

ふがひ 右同斷